

国際連合世界人口会議

国際連合の主催の下に、1974年8月19日から30日までの12日間にわたり、ルーマニアの首都ブカレストにおいて、標記の会議（United Nations World Population Conference）が開催された。

世界人口会議は過去、1954年にローマ、1965年にベルグラードでそれぞれ開催されており、今回は数えて第3回めに当たるが、前2回の会議が学者・専門家を中心とした学会的色彩の強い会議であったのと異なり、今回は、世界各国の政府代表による会議であり、政府間ベースのものとしては初の世界人口会議ということになる。

近時における世界人口の激しい増加、とくに開発途上地域におけるそれは、経済開発をはばみ、人口増加と低所得、貧困との悪循環が繰返され、また、資源についても空間についても有限であるこの地球上で、人類だけが無限に増加を続けることは不可能であるという基本的認識を生み、これが人口問題をグローバルな視点から考える契機となった。国連は、1970年の第25回総会において、人口問題について世界各国の合意を得、この問題の取組み方について深い理解を得るため、1974年を「世界人口年(World Population Year)」と定め、この世界人口会議はその最大の行事となったのである。

会議には、世界136か国からの政府代表を始め、国連関係諸機関の代表など千人単位に上る多数の人々が参加したと見られるが、日本からも、斉藤邦吉厚生大臣を首席とする約30名から成る代表団が参加した。本研究所の黒田俊夫所長も代表代理としてこれに参加した。

今回の世界人口会議の最大の目的は、「世界人口行動計画（World Population Plan of Action）」の採択にあった。国連事務総長よりこの会議に提案された行動計画案は、国連人口委員会および行動計画諮問委員会において数回にわたって審議され練り直された第3次案であった。行動計画の審議は、20日からの作業部会で行なわれたが、パラグラフ数93の草案に対して、各国から提出された修正案は300にも上り、会議は難航し、当初予定された作業日程が1日延長されて、28日深夜にようやく改正案がまとまった。改正案は、パラグラフ数が108に増加し、原案のほとんどのパラグラフについて修正案が加えられている。その詳細、その他、今回の世界人口会議の内容については、別掲（32～40ページ）、黒田俊夫稿「国連世界人口会議報告」を参照されたい。

（山口喜一記）

国連主催国内人口委員会代表者会議

国際連合人口活動基金は1974年8月ブカレストにおいて世界人口会議を開催するに先立ち、参加各国の国内における活動状況を相互に報告し、また国連事務当局および人口活動基金による準備状況を報告する目的をもって、1974年7月10日から12日まで3日間、ブラッセルにおいて上記の代表者会議を開催した。日本から日本国内人口委員会議長大来佐武郎氏が出席のはずのところ所用のため代理として人口問題研究所人口移動部岡崎陽一移動科長が出席した。主なる議題として、各国代表から自国の活動状況に関する報告、人口活動基金の活動状況報告、世界人口会議の準備状況の報告があった。日本側としては、日本人口会議、人口問題審議会、その他民間団体の活動について報告した。

（岡崎陽一記）